

新・気仙風土記（下）

千葉俊雄

四、玉山金山

陸前高田市の北の山奥に、玉山金山がある。平安時代には、ここで産出した金が奥州平泉、中尊寺の金色堂に使われた。金は重いので米俵に詰め、牛の背の左右に一俵ずつ括り付けて運んだ。それを「俵牛」と呼び、陸前高田の郷土玩具になっている。

そして、燦然と輝く金色堂は、東方見聞録で「ジパンクは、建物も道も全て金で覆われている。」と紹介され、世界の冒険者達を刺激し、大航海時代を迎えた。大航海時代の引き金が玉山金山だったとも言える。

なお、当時の藤原氏の勢力圏には他に幾つも金山があり、そこからも金色堂へ金を運んだ。金山が東北地方に数多くある事は、後に唄われた南部牛方節に「田舎なれども南部の国は西も東も金の山」とある通りだ。また、この付近は「金」や「金野」姓が多い。

黄葉の山路ゆるり俵牛

俊雄

五、気仙語

山浦玄嗣さん（八二才）は、東京で生まれてすぐ、母親

の郷里の大船渡に移転し、長く開業医を営んでいる。山浦さんは、「方言」という言葉を嫌う。方言は、中央（東京）に対して地方という位置づけがあり、地方を低く見ているからだ。そこで山浦さんは、気仙地域の言葉を「気仙語」と名付け、新共同訳聖書（日本聖書協会刊）を気仙語に翻訳して、出版した。例えば、聖書によく出てくる「愛」と言う言葉を気仙の人達が聞くと恥ずかしかるので、「愛」を「大切にすると訳した。また、聖書の有名な言葉で、「求めなさい。そうすれば与えられる。」は、こうだ。

《願って、願って、願いつける。そうすれば、貰える。》
山浦さんはカトリックのクリスチャンで、聖書を翻訳する為にギリシャ語を勉強した。気仙の人に合った言葉にして、聖書を読んでもらいたいというのが、山浦さんの願いだ。

おぼんです訛り懐かし盆踊

俊雄

【参考文献】

山浦玄嗣著、『ガリラヤのイエシュウ』

日本聖書協会編、『新共同訳聖書』

重松清著、『希望の地図』

六、気仙史話

気仙川での漁業権の争いを紹介する。

この川は鮭、鱒、鮎の宝庫で、高田村と今泉村の両村を通り、東日本大震災で「一本松」となった陸前高田の高田松原へ注いでいる。古来、この川の主流は高田村を通っていたので、高田村の漁師三十人が二日漁をすれば、次の一

日は、今泉村の漁師十六人が漁をするのが恒例だった。

ところが、寛永十六（一六三七）年に、未曾有の大雨で川筋が今泉村へ変わってしまった。そこで、今泉村は気仙川を占漁すると主張。これに対し、高田村側は今迄通りを主張。互いに譲らず、流血の惨事を生じた。これに心を痛めた高田村に住む村上織部道慶は、一日交替を提案し仲裁するが、双方共聞き入れなかった。そこで道慶は意を決し、「私はこの川で自分の首を切る。首は高田村側に、胴は今泉村側に着くだろう。そうしたら争い事は止めなさい。」と諭した。道慶が川の中で自分の首を刎ねると、果たして予言通り、首は高田村側に、胴は今泉村側へ着き、村人は争いをしなくなった。

この話は、市立図書館に史実として保存されている。これも自己犠牲的な話だ。自己犠牲的なエピソードは、東日本大震災でも幾つか聞いている。言ってみれば、気仙地方の人達は心優しく、人を慮る心があるので、キリスト教を受け入れる余地は多分にあると山浦氏は判断し、難解なギリシャ語を勉強してまで『気仙語訳聖書』を出したと推察した。作家で僧侶の瀬戸内寂聴さんは岩手県民の特性を「視野が広く、おおらか。これは、南部藩は領地が広く、鉄や金等の多くの鉱山を持ち、裕福だったからではないか。」との見解がどこかの新聞に載っていた。だが、財政的な余裕があっても、やはり「土農工商」の世。南部藩も伊達藩も農民にはかなり圧政をしていたようだが、記事のような県民性がある事は頷ける。

鯉争ひ止めると自己の首刎ねる

俊雄

七、千葉新次の事

身内の話をするのもどうかと思つたが、伯父千葉新次の事を紹介させていただく。

伯父は東京で長く教員生活をしていたが、校長と教育観の相違があつた為、教師を辞し、郷里の陸前高田へ帰り、また教員生活を続けた。後年、東京の教師辞任は若気の至りと述懐していたが、私は大いに共感している。故郷での教員生活は、小友中学校校長をもつて退職。その後は岩手ユネスコ協会を立ち上げ、ユネスコ活動に専念した。伯父は盛岡での学生時代、新渡戸稲造氏の集会に出たり、森戸辰男氏とも面識があつた。ユネスコ活動はその影響もあつたと思う。

そして、ユネスコ活動の一環として、各種学校の「しもと下新田だ（集落名）ユネスコ生活学園」を創設し、経済的な理由で高校へ進学できない人達に、簿記や和裁、洋裁、和文タイプなどの実技を身につけさせた。また、生徒の経済的負担を考え、当時の国鉄に通学定期の認可を申請、認可を受けた。経営は苦しく、正に自転車操業だった。これも、自己犠牲的な気仙地方の血筋だろう。伯父は、ユネスコ会議の席上、急逝した。

東日本大震災の津浪で校舎は跡形もなくなつてしまつたが、跡地に立って、澄んだ秋の夜空を見上げると、肉眼でも銀漢の瞬きが見られる。

大銀河命棲む星ただ一つ

俊雄